

参考文献

- 1) 日本産蛾類大図鑑 I、II：講談社
- 2) 原色日本蛾類図鑑上、下：保育社
- 3) 原色昆虫大図鑑 I（蝶蛾篇）：北隆館
- 4) 六甲の自然：神戸新聞出版センター。
10. IX. 1982発行
- 5) 田中蕃：神戸摩耶山に産する大蛾類、佳香蝶
(KAKOCHO) Vol. 19 No.71. Nov. 1967.
- 6) 田中蕃：神戸市摩耶山に産する若干の蛾類、蛾類
通信No.45. 1966.
- 7) 遊磨正秀：六甲山地地域の蛾類 I、II、きべりはむ
し、1973.
- 8) 遠山雅夫、遊磨正秀、松本健嗣：兵庫県の蛾 (I)
、(II)、きべりはむし、1975.
- 9) 新家勝：宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(その1、
その2、その3、続報その1、続報その2) き
べりはむし、1981~1983.
- 10) 松本健嗣：神戸市山田町の蛾数種、その続報 I、
続報 II、きべりはむし、1981~1983.
- 11) 松本健嗣：神戸・明石近海地域の主な蛾(その1)、
きべりはむし、1983.
- 12) 芦田久、佐藤彦：西宮市角石町で採集した蛾類数
種の記録、きべりはむし、1981. 他数篇の採集
御報告例、
- 13) レクリエーションマップ：神戸市市民局生活部市民生
活課市民レクリエーション係。

(〒658 神戸市

岡村八郎 ☎神戸(078)851-

Hachiro Okamura

アブラムシの分泌物を吸う蝶2例

広畑政己

幼虫がアブラムシの分泌物を食べて成長する種には
ゴイシジミやクロシジミなど数種が知られているが、
成虫がアブラムシの分泌物を吸う行動については報告
を聞かないので記録として書き留めておきたい。

分泌物を吸っていたのは、キタテハとサトキマダラ
ヒカゲの2種で、1983年5月29日に神崎郡市川町上牛
尾にてウメのアブラムシの分泌物を吸っているのを目
撃した。両種は吸汁をする習性を持っている種なので、
珍しくはないのかもしれないが、これまでに観察をし
たことがないので報告をした次第である。

(S28: Masami Hirohata 〒671-22 姫路市)

昆虫館だより ⑧

千種川グリーンライン昆虫館

館長 内海 功一

'84年の夏から秋にかけて近辺の直翅類の一部
に関心を寄せてみた。宍粟郡の高地路辺の陽光
地ではハネナガフキバツタがよく目につくが、
ほかに、ミヤマフキバツタも山地では特に多い
ものである。ところが、後者をさらに翅のよう
すなどの外観上から調べてみると、やはり、場
所により変異のあるものが見つかった。

ところで、『信州の秋に鳴く虫とそのなかま』
を参考書としてみると、普通種としてはヤマト
フキバツタといわれるものであり、ほかに、ミ
カド・コンゴウといったものがいた。

これらの食草はヤマトの場合は案外多食性で、
当地の庭でもキク・ノコンギク・ギボウシなど
を食べており、館内飼育ではヨモギで時期外れ
をつくったこともあるが、ミカドやコンゴウ、
それにヤマトを含めてクズ・タニウツギが好物
のようで、特にコンゴウの場合はタニウツギ専
食といってもよいぐらいである。以前に同地で
幼虫がタニウツギの葉上に群がっていたのを見
たが、今度のことで、ヤマトでなかったことが
納得できた。

タニウツギは分布上から日本海側に多いもの
の、播磨では相当南部まで見られる特異分布と
なっているが、やはり、宍粟の奥地の谷程多く
て、これを食草とする虫達もそれに相まったの
分布と思われる。ちなみに、これらは、おおか
たのバツタと違いイネ科の方は好まないようで
ある。

つぎに、山地のツユムシはエゾが主であるこ
と、千種町でコバネヒメギスを見たこと、小さ
くは、船越山中でコバネヒシバツタを見たこと
など、これからの課題が多くできた。

(60. 6. 15)

(S08: Kōichi Utsumi 佐用郡南光町船越)